

平成30年11月21日

特別講演会

「大地を知る、大地を見る 災害に対する リモートセンシングの役割」について

1) 日時・場所

2018年11月27日(火) サンポートホール高松・第1小ホール 16:00~18:00(120分)

2) 講演

講演1 「大地の成り立ちを理解して災害に備える」 16:00-16:45

講演者：長谷川 修一(はせがわ しゅういち)(香川大学)

講演2 「SIP 国家レジリエンス(防災・減災)の強化」 16:45-17:15

講演者：宮武 晃司(みやたけ こうじ)(内閣府 参事官)

司会：日本リモートセンシング学会会長 岩崎晃(いわさき あきら)(東京大学)

パネルディスカッション 17:15-18:00

コーディネーター：野々村 敦子(ののむら あつこ)(香川大学)

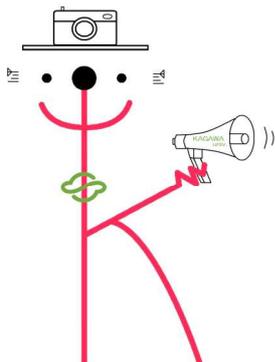
パネリスト：講演者、香川県、宇宙航空研究開発機構

3) 概要

本講演会では、災害についての知識を深めると共に、リモートセンシングデータの役割について確認します。あわせて、自治防災と中央防災の連携についても検討し、気候変動に伴って増大する気象災害や予測が難しい地震に対する対策を議論します。

4) 興味のある方はどなたでもご参加頂けます

5) 参加費無料



➤ お問い合わせ先

香川大学 創造工学部 准教授 野々村敦子

TEL：087-832-2146

E-mail：nonomura@eng.kagawa-u.ac.jp

★上記不在の場合 香川大学 創造工学部 庶務係 廣瀬

TEL：087-832-0044

FAX：087-832-2032

E-mail：koshomu5@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

■特別講演会

「大地を知る、大地を見る 災害に対するリモートセンシングの役割」

主催：一般社団法人 日本リモートセンシング学会

後援：国土交通省四国地方整備局，香川大学，宇宙航空研究開発機構（JAXA）（予定）

1) 日時・場所

2018年11月27日（火）サンポートホール高松・第1小ホール 16:00～18:00（120分）

2) 講演

講演1 「大地の成り立ちを理解して災害に備える」 16:00-16:45

講演者：長谷川 修一（香川大学）

講演2 「SIP 国家レジリエンス（防災・減災）の強化」 16:45-17:15

講演者：宮武 晃司（内閣府 参事官）

司会：日本リモートセンシング学会会長 岩崎晃（東京大学）

パネルディスカッション 17:15-18:00

コーディネーター：野々村 敦子（香川大学）

パネリスト：講演者、香川県、宇宙航空研究開発機構

3) 概要

近年、想定を越える規模の自然災害が発生しており、広域の被害が報告されている。2011年の東日本大震災においては、東北地方の太平洋岸一帯に津波被害を受けた。2018年7月豪雨では、中国四国を中心に広範囲の洪水および土砂崩れが発生した。同年9月における北海道胆振西部地震の土砂崩れは明治以降で日本最大レベルであった。

このように多発する災害に対して、その物理現象を理解し、取るべき対策について知ることは極めて有益である。ハザードマップから一步進めて、住んでいる地域においてどのような災害が起こりうるのかを理解することで、減災に繋がると考えられる。今年度からは、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期において、国家としての災害対応を強化するべくプログラムが開始されている。衛星や航空機などのリモートセンシングデータは、広域の災害に対して、即時性のある情報源として期待されている。

本講演会では、災害についての知識を深めると共に、リモートセンシングデータの役割について確認する。あわせて、自治防災と中央防災の連携についても検討し、気候変動に伴って増大する気象災害や予測が難しい地震に対する対策を議論する。

【長谷川修一先生のご講演内容】

日本人はプレート境界の地震・火山列島に暮らしているだけでなく、傾斜地なら土砂災害によって、平地なら洪水によって形成された土地に住んでいるにもかかわらず、自分の土地がどのような災害でできたかを知って、防災・減災に取り組んでいる人は少ない。暮らしている土地の成り立ちに関する無知が、危険箇所への居住を促進し、被災を大きくする。そして、土地の成り立ちに関する無知は、大地に関する無関心に起因する。従って、大地の成り立ちに関する関心を高め、土地の成り立ちに関する無知へ減らすアウトリーチが必要と考える。また、想定外を少なくするには、過去の災害履歴だけでなく、時間軸を長くとり、地形・地質から得られる低頻度の破局的巨大災害の知見を減災ソフト対策・危機管理に反映させる必要がある。

【長谷川修一先生のご略歴】

香川大学創造工学部 教授・学部長

島根県出身。昭和 55 年 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了、四国電力株式会社入社。昭和 62 年 株式会社四国総合研究所出向。平成 12 年香川大学工学部助教授に着任し、平成 14 年 香川大学工学部教授、平成 29 年 香川大学工学部学部長、平成 30 年 香川大学創造工学部 学部長。

【宮武晃司様のご講演内容】

平成 30 年度より戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第 2 期として、「国家レジリエンス (防災・減災) の強化」が開始された。このプログラムでは、大規模地震・火山災害や気候変動により激甚化する風水害に対し、市町村の対応力の強化、国民一人ひとりの命を守る避難、広域経済活動の早期復旧を実現するために、南海トラフ地震等の防災に関する政府計画を実施するための研究開発を行うとともに、社会実装の目処を付ける。具体的には、本 SIP で対象とする 2 つの統合システム (避難・緊急活動支援統合システムおよび市町村災害対応統合システム) について、最先端技術を取り入れた研究開発を行い、国及び異なるタイプの複数の自治体で実用化する。本講演では、研究開発の一つの柱である、広域かつ迅速なデータ取得と情報獲得を可能とする衛星リモートセンシングへの期待について、他の研究課題とあわせて発表する。

【宮武晃司様のご略歴】

内閣府 参事官

香川県出身。九州大学工学部水工土木学科卒。平成 2 年建設省入省。国交省水管理・国土保全局防災課首都直下地震対策官、防災調整官を歴任。平成 29 年 4 月から現職。

リモートセンシング学会 CPD (2 ポイント)、測量系 CPD (2 ポイント) が発行可能です。CPD 発行の希望者は、CPD 受付にご連絡ください。

〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13

ユニゾ小石川アーバン 4F

一般社団法人 日本リモートセンシング学会

TEL 03-5981-6082 FAX 03-5981-6012 E-mail info@rssi.or.jp